

雪の結晶に興味津々

東郷で観察会 児童ら「きれい」

みんなで
読もう

教員OBらでつくるNPO法人ふくい科学学園は6日、人工的に作った雪の結晶の観察会を福井市東郷二ヶ町のこびり庵で開いた。東郷小児童や地区の高齢者が「きれい」「こんなの初めて見た」と興味津々に顕微鏡をのぞ



顕微鏡で雪の結晶を観察する児童
6日、福井市東郷二ヶ町のこびり庵

ていた。同法人の香川喜一郎理事ら2人が講師として訪れた。削った水に塩を混ぜて氷点下20度まで温度を下げ、電気を帯びたプラスチック板とともに容器に

入れ、数分おきに水分を少しずつ送り込み結晶を生かした。参加者は結晶を見やすくするためLED光源で照らしながら顕微鏡で観察。星形や6方向に柱が伸びた結晶など形や色の違いを確認していた。吉田紗和さん(東郷小4年)は「雪の結晶は初めて見た。一つ一つ色が違ってきた。」と笑顔を見せた。

同法人は、東郷地区住民でつくる「新幹線開業に向けて越美北線を考える会」と連携し今季、同線美山駅で自然の雪の結晶観察会を計画している。香川さんは「観察会で駅舎を使うことで、沿線を活気づけられたら」と話した。(片山洗希)